

「帯広市岩内自然の村」の方向性の検討について

令和3年7月29日
経済文教委員会提出資料

岩内自然の村の概要

自然に親しむことを通じ、市民の健康増進を図り、自然に対する理解を高めることを目的に、昭和56年7月に開村し、次の施設を設置。毎年の開村期間は6月1日～10月31日。

<p>〈施設内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業体験実習館「山の家」（鉄骨造2階建 878.98㎡） 休憩室6室（計78人収容）、軽運動室、調理室、シャワー室、トイレ 管理棟（鉄骨造平屋 260.05㎡） 研修室2室（計60人収容）、事務室、管理人室、トイレ バンガロー（15.12㎡×10棟、計60人収容） ・ キャンプ場（10,000㎡、計100人収容）

検討に至る背景

- 建設から40年以上を経過し、施設の老朽化が進むなど、今後も安全性を確保し中長期的に使用を続けていく場合、耐震工事などの大規模な改修が必要。
- 長期的に利用者が減少し、さらに開村当初利用者として見込んでいた市民利用が全体の2～4割、高校生以下の利用も2～3割となっており、実習館や管理棟（研修室）を中心とした施設の設置目的である自然体験活動の場としての利用も減少。
- 開村時から状況が変わり、バンガローやキャンプ場については、近隣のポロシリ自然公園をはじめ十勝管内で類似施設の整備が進んでいる。
- 帯広市公共施設マネジメント計画に基づき、施設の状況や施設を取り巻く環境の変化等を整理しながら、検討を行うもの。

○利用状況

(単位：人)

区分	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	平成2年度	平成12年度	平成15年度
実習館	12,248	6,995	10,951	7,271	2,389	1,107
管理棟	6,510	3,457	4,486	4,555	1,689	648
その他	9,881	20,014	12,553	7,226	3,558	2,208
計	(開村1年目) 28,639	(過去最多) 30,466	27,990	(開村10年目) 19,052	(開村20年目) 7,636	(過去最少) 3,963
区分	平成22年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
実習館	1,187	2,103	2,034	1,779	2,263	1,267
管理棟	252	320	417	472	854	492
その他	4,692	6,637	5,140	4,901	5,508	7,179
計	(開村30年目) 6,131	(開村35年目) 9,060	7,591	7,152	8,625	8,938

※実習館内の調理室・シャワー室・軽運動室の利用数を除いた数値。

- 利用人数は開村当初の約3万人から近年では約9,000人と、約3割まで減少。
- さらに児童生徒や青少年団体が主に使用する実習館・管理棟は、同1割台に減少。

○経費（支出）の推移

(単位：円)

費目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
委託料（指定管理料）	7,456,000	7,456,000	7,485,000	7,485,000	7,504,000
その他	38,913	411,597	42,991	273,831	39,000
合計	7,494,913	7,867,597	7,527,991	7,758,831	7,543,000

○使用料（収入）の推移

(単位：円)

費目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
使用料 計	240,300	217,900	201,700	252,700	243,800

想定ケースごとによる比較検証

施設の方向性として想定されるケースごとに経費等をシミュレーション。

(単位：千円)

区分	ケース1 全施設更新新築	ケース2 耐震工事・全施設改修	ケース3 実習館のみ解体・ 管理棟・バンガロー改修	ケース4 実習館・管理棟・ バンガローを解体	ケース5 廃止
維持される機能	キャンプ 自然観察 休憩（宿泊可） 研修 軽運動、調理実習	キャンプ 自然観察 休憩（宿泊可） 研修 軽運動、調理実習	キャンプ 自然観察 休憩（宿泊可） 研修	キャンプ 自然観察 研修	—
継続される施設	実習館 管理棟 バンガロー キャンプ場	実習館 管理棟 バンガロー キャンプ場	管理棟 バンガロー キャンプ場	キャンプ場	—
試算経費 (設計・工事費用+ 維持管理費(10年分))	849,840	411,010	225,130	91,320	65,850
実施設計委託費	33,760	17,510	16,820	4,700	5,690
解体工事費	60,160	0	30,160	56,620	60,160
耐震診断委託費	0	2,730	1,130	0	0
改修工事費	0	310,770	99,020	0	0
新築工事費	675,920	0	0	0	0
小計	769,840	331,010	147,130	61,320	65,850
管理費(10年分)	80,000	80,000	78,000	30,000	0
利用面の検証	更新により、時代に即したニーズや最新の状況に合わせた新しいプランや工夫を取り入れやすい。	現在の施設の規模や設備の範囲で、改修により、利便性が向上する。	実習館がなくなり軽運動室、調理室、シャワー室など利便性は損なわれる。キャンプ場も含め野外施設は利用可能。	キャンプ場の利用は可能だが、管理人が常駐できなくなり、緊急時やトラブル等の即時対応が難しくなる。	自然体験施設の機能は失われ、キャンプ場利用者や簡易宿泊利用者を中心に、十勝管内類似施設などの他施設を選択することになる。
課題やデメリットの検証	施設の老朽化などの課題は解消できるが、費用対効果の面で課題がある。	ケース1に比して経費は半額程度であるが、費用対効果の面で課題がある。	・中核機能を失うことで利用者減少の恐れがある。 ・なお2億円以上の経費を要し費用対効果の面で課題がある。	・中核機能がなくなることで利用者減少 ・緊急時やトラブル等の即時対応など適切な管理を行うことが難しくなる。	廃止に向け、地域や利用団体等への説明と理解を得ることが求められる。

※1 ケース2・3において耐震補強費は含まない。 ※2 ケース5において、給水施設や給水管等の埋設物の解体・撤去費用は含まない。
※3 全てのケースにおいて表中の費用以外に実施設計と合わせてダイオキシン・アスベスト含有費用調査と、含有している場合は撤去・処分費用が別途必要となる。

主な聴取意見

方向性検討のため、利用者団体、関係者等から今後のあり方について聴取。

- 施設について
 - ・新築・改修の実施は厳しいと思う。キャンプ場だけが残った場合、ボランティアでの運営協力は難しい。（地元町内会・観光協会）
 - ・新築や改修は行わなくても、使えるうちは運営してほしい。（青少年団体、保育園・子育て支援団体）
- 立地・機能について
 - ・路線バスがなくなり、行事ごとにバスを用意しないと行けなくなった。（青少年団体）
 - ・若年層のために自然に親しめる施設が必要。（各利用団体、社会教育委員）
- 施設の利活用について
 - ・別目的での転用を含め、建物や土地の利活用は難しい。（観光関係事業所）

施設の方向性について

岩内自然の村は開村後40年以上が経過し、人口減少・少子高齢化の進行や、社会情勢の変化などから、開村当初の年間3万人超の利用が近年では約3割まで減少し、主な使用対象を小中学校の児童生徒や青少年団体等としている実習館及び管理棟の利用も、開村当初の約1万9,000人から1割台となったほか、利用者の内訳も市民2～4割、高校生以下2～3割となるなど、施設設置の目的である青少年を中心とした市民による自然体験の場としての利用が減少してきており、今後もこの傾向は続いていくものと考えられます。

さらに、施設の老朽化が進行し、安全性を確保しながら、継続的に使用していくためには大規模な改修が必要となり、維持管理費も含め、多額の費用が必要となります。

施設を継続的に利用している団体等からは存続を望む声もあるものの、利用状況からは、岩内自然の村以外の、類似施設での活動も可能と考えます。また、周辺地域において、岩内自然の村の利用者を対象とした事業所等は少なく、施設が地域へ与える影響は限定的であると考えます。

これらを踏まえ、岩内自然の村は、施設設置の目的である青少年を中心とした市民の自然体験施設としては一定の役割を果たしたものと判断します。

なお、今後の検討作業としては、民間事業者等による施設利活用の可能性について幅広く聴取をした上で来年度予算の編成作業に併せ施設の方向性を固めていくこととします。